

●はなせ診療所そよ風たよりN o 69

2016年6月はなせ診療所 内科 吉澤泰介

今回は歌の話です

1) 『手紙～親愛なる子ども達へ』

自らパーキンソン病をもちながらプロの歌手として歌い続ける、樋口了一さんという方の『手紙～親愛なる子ども達へ』という歌が、素敵です。

元々の原曲はブラジルのものだそうで、それに樋口さんが曲を付けたそうです。認知症と闘いながら、年老いていく自分をありのままに受け止めてほしいという願いを切実に子供たちに訴える思いが、ひしひしと伝わってくる珠玉の歌です。

2) 『深夜高速』という歌。

40歳までの若者の自殺率が世界一という日本。フラワーカンパニーズという旅する四人組の歌が、彼等と同じく生きることが困難な若者たちへの応援歌になっています。多くのミュージシャン達もこの歌に感銘をうけ、それぞれでカバーしているそうです。ここ花背にいと 民謡が、ご老人たちの生きてく力になっていることをつくづく感じます。ほんと歌はいいなあ。